

3月24日、バマコ市内 POINT G 小学校において、平成23年度対マリコミュニティ開発支援無償資金協力「第四次小学校建設計画」の第一バッジ引渡し式が実施され、当館黒木大輔大使、森谷祐司 JICA セネガル事務所長、トーゴ・マリ国民教育省大臣、バマコ第3区長、POINT G 小学校長、同教員・生徒・保護者、地域住民等多数が出席し、以下のスピーチが行われました。

◎黒木大使＝「本案件は2012年の危機により一時中断されたが、この度、第一バッジで約100の教室建設にこぎ着けたことを大変嬉しく思う。日本は、1997年に対マリ小学校建設計画を開始して以来、既に1000教室以上を建設しているが、基礎教育の拡充は経済社会開発の根幹であるところ、引き続き同分野におけるマリ政府の努力を支援していきたい。」

◎トーゴ国民教育省大臣＝「1997年に日本の小学校建設計画が始まった当時、同案件を担当していたのは正に自分であった。以来20年に亘り、日本が継続的にマリの基礎教育分野を支援してきたことは良く承知している。バマコは人口増加率が高く慢性的な教室不足に悩まされており、この小学校も全校生徒が1500人を超えるところ、今回の支援に心から感謝する。」

本案件は、2008年に開催された TICAD IV で採択された横浜行動計画の「基礎教育－アクセスと質の改善」に該当し、案件全体では200以上の教室がバマコ市及びその近郊に建設される予定です。



黒木大使とトーゴ国民教育大臣
(建設された教室にて)



スピーチをする黒木大使



バマコ第3区長による記念品贈呈



リボンカット



建設された小学校の教室



建設された小学校の教室内部